



2023年12月19日

各 位

会 社 名 株式会社アイロムグループ
代表者名 代表取締役社長 森 豊隆
(コード番号 2372 東証プライム)
問合せ先
役 職 取締役 CEOオフィスセンター担当
氏 名 小島 修一
電 話 03-3264-3148

当社子会社による英国 Roslin Technologies Limited との iPS 細胞作製技術に関するライセンス契約締結のお知らせ

当社の 100%子会社である株式会社 ID ファーマ（以下「ID ファーマ」という）は、世界の培養肉（※1）企業に技術とリソースを提供する英国 Roslin Technologies Limited（以下「Roslin Tech」という）と、ID ファーマが所有する CytoTune®-iPS（※2）の技術を用いて Roslin Tech が iPS 細胞を作製すること等を許諾する契約を締結することを、本日決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 契約の概要

ID ファーマは Roslin Tech に対して、ID ファーマが所有する CytoTune®-iPS の技術および両社が共同開発するキットを用いて iPS 細胞を作製することについて、全世界を対象とする非独占的な権利を許諾しました。本契約に基づき、Roslin Tech は今後、顧客やパートナーと協力して更なる培養肉の研究、開発を推進し、培養肉生産の最適化を目指します。これにより ID ファーマは Roslin Tech から、契約一時金および一定のロイヤリティを受け取ります。

2. 契約の意義

培養肉の世界市場は 2030 年までに 3 兆円にのぼるともいわれており、現在、世界中で研究開発が進められています。Roslin Tech は、培養肉用の細胞株技術と関連ノウハウを食品・農業に応用する世界的リーダーであり、持続可能なフードシステムの構築に取り組んでいます。本契約の締結により、CytoTune®-iPS を用いて作製された動物由来 iPS 細胞や、その iPS 細胞由来の分化細胞等を応用した培養肉など、新たな分野において、同社の研究開発が進展することが期待されます。

ID ファーマは、本契約のように CytoTune®-iPS を活用した iPS 細胞等の作製とその商業利用を許諾する契約の締結を推進しており、そのような取り組みにより基盤技術であるセンダイウイルスベクターを用いた、多岐にわたる事業機会を創出できるものと考えております。

3. Roslin Technologies Limited について

Roslin Tech は英国エジンバラ郊外を拠点とする食品・農業バイオテクノロジー企業です。培養肉の生成に必要とされる脂肪組織や筋肉組織に分化できる多能性幹細胞の商業化に成功した最初の企業で、現在は生産コストの削減や生産プロセスのスケールアップの研究開発に注力しています。革新的な技術・生産体制の開発と社会実装を通じて、世界の持続可能な食糧システムの実現に取り組んでいます。

詳しくは同社ウェブサイトをご覧ください：<https://roslintech.com/>

4. 業績に与える影響

本件による 2024 年 3 月期の業績予想に変更はありませんが、本契約により CytoTune®-iPS の技術を用いた新たな事業機会を創出できるものと考えており、中長期的な当社の業績に寄与するものと期待しています。

※ 1. 培養肉

培養肉とは、動物から得られた一部の組織細胞をバイオリアクター内で培養して作られた、動物タンパク質を含む食用肉のことです。英語で **Cultured Meat** とも呼ばれ、再生医療技術を応用して開発・製造されます。人口増に伴う食糧の安定化、気候変動、資源問題、動物福祉などの理由から、現在、世界中の 100 社以上の企業によって培養肉の研究開発が進められています。

米マッキンゼー・アンド・カンパニーの推計によると、世界の培養肉市場は 2030 年までに 200～250 億ドルに達すると予想されています。

※ 2. iPS 細胞作製キット「CytoTune®-iPS」

CytoTune®-iPS は、京都大学の山中伸弥教授の iPS 細胞作製技術と、ID ファーマのセンダイウイルスベクター技術を融合させて開発した iPS 細胞誘導キットであり、本キットを用いることにより、一回のベクターの使用で線維芽細胞などの体細胞から iPS 細胞を効率よく誘導することができます。特にヒトに大きな苦痛を与えずに採取できる末梢血・血液細胞からの効率的な誘導が可能であり、他の方法と比べて優れた性能を有しています。さらに本キットを用いて作製された iPS 細胞は、元の細胞の染色体上の遺伝子配列を無傷にそのまま維持しており、また iPS 細胞誘導に用いたベクターが細胞から素早く消失されるよう改良されているため、国内外の研究者から高い評価を受けております。

以 上